

## 「『大切にすること』の大切さ」



心ぬくぬく大作戦  
（人権の）

「○ちゃん、がんばって」「最後までがんばれ」「もうちょっと、もうちょっと」…。園部第二小学校の2学期は、運動会、駅伝大会、マラソン大会と大きな行事が続きます。特にリレーやマラソンで最後まで懸命に走っている友達への声援は一段と大きなものとなり、その声援に支えられて見事ゴールすると、走っている子も応援している子もみんなが、満足感いっぱいの笑顔になります。

毎年11月から12月にかけて、なかよし（人権）月間を設定し、

学校全体、または学級や学年での取り組みを行っています。今年度の児童会のスローガンは、「心ぬくぬく大作戦 やさしさいっぱい 友達いっぱい」です。学級や委員会

会で話し合っ、目当てや取組内容を決め、「全校生のよいところみつけ」や「スイセン（人権の）

花）の水栽培、「人権に関する本の紹介」などを行いました。

日ごろは意識していない自分の行動や言葉について振り返り、「人を傷つける言葉を使わないようにしましょう」「もめごとの原因を作らないように一人一人が気を付けよう」ということを話し合った学級もありました。このような取り組みをすることにより、「命を大切にすること」「人を大切にすること」「自分を大切にすること」を考え、また、教職員が子どもたちの日常での優しさや頑張りを見つけてカードに書いて掲示するという取り組みも行っています。

いつも周りの大人や友達から優しい言葉をかけてもらっていて、自分が大切にされていると思える豊富な経験をしている子は、友達が困っている場面に出会うと優しい言葉をかけられます。子どもたち一人一人の「よいこと」「困ったこと」もすべて受け入れ、認めた上で、「自分は大切にされている」と感じられる経験を増やしていくことが私たち大人の役目だと考えています。

（園部第二小学校 人権教育主任

藤原 尚子）

### 環・境・市・民



#### 今回のエコロジスト

植月千砂さん

（美山町内久保



美山町にある自然派カフェ「アーサガーデン」を営む植月

さんの住まいはパーマカルチャー（※）の手法を取り入れて設計された、まるで小さな地球。150種類の食べられる植物が育つ有機ガーデンに雨水タンク、まきストープなど、水やゴミの循環、自然エネルギーの活用というさまざまな環境対策を重ね合わせて、暮らし全体が自然に溶け込んでいます。

有機ガーデンで直径2mほどの楕円形の池を発見。今は冬枯れのビオトープです（写

真）。ビオトープは多種の生物が互いにつながりをもって生きられる環境のこと、そこにはスイレン



のほかクワイなど食用の水生植物も育っています。トンボが産卵しに來たり、カエルが自然にすみ着くようになったり、ガーデンの害虫などを食べてくれる自然の生態系がここにもあります。

「夏にはガーデンのあちこちでモリアオガエルが見られます。まるで自然豊かな森のような世界ですよ」と話す植月さんの笑顔がとても印象的でした。ビオトープは、プランターやスイレン鉢などで手軽に作ることもできます。

※パーマカルチャーとは：持続可能な農業を基本としながら循環型社会を目指す、地球に負担をかけない生き方のこと。

（環境課）